

病害虫発生予察注意報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

シロイチモジヨトウの多発に注意

県内のネギほ場では、シロイチモジヨトウの成虫が平年より多く確認されています。今後、本幼虫による被害の拡大が懸念されるため、防除の徹底が必要です。

◎病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 作物名：ネギ

2 発生地域：県下全域

3 発生程度：多い

4 注意報発令の根拠

(1) 県内5か所に設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査において、5月6半旬～6月2半旬の累計誘殺数は、64頭（前年40頭、平年18頭）と被害が多発した前年より多く確認されている（図1、2）。

シロイチモジヨトウは、9月にかけて増加する傾向があるため、今後、被害の拡大が懸念される。

(2) 新潟地方気象台によると、北陸地方の6～9月の気温は、平年より高いと予想されており、シロイチモジヨトウの活動が活発になると予測される。

5 防除対策

(1) ほ場を見回り、卵塊（図3）や幼虫が付着した葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。

(2) ネギの葉身内に侵入した中～老齢幼虫は、薬剤の効果が低くなるため、若齢幼虫期までに表を参考に薬剤防除を実施する。

(3) 若齢幼虫（図4）や被害株（図5）が多くみられる場合は、7日間隔を基本に薬剤散布を実施する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は避け、ローテーション防除を実施する。

(4) 交信かく乱剤を用いる場合は、薬剤散布後の発生密度が低下したタイミングで設置する。

【留意事項】

※農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止を徹底するとともに、農薬の使用回数、使用時期等の基準を遵守する。

※養蜂が行われている地域では、農薬散布前に養蜂業者へ連絡するなど、ミツバチの危害防止対策に努める。

【参考資料】

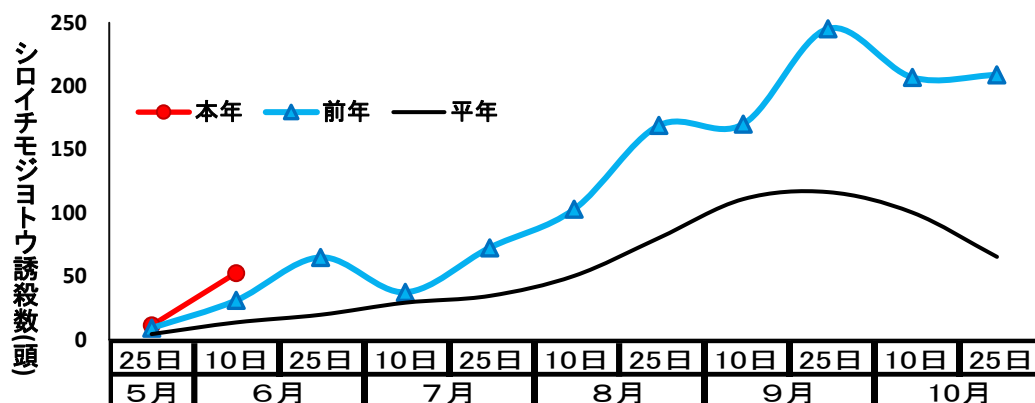


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数(県内5か所平均)



図2 誘殺されたシロイチモジヨトウの成虫



図3 シロイチモジヨトウの卵塊



図4 ネギを食害するシロイチモジヨトウの若齢幼虫



図5 シロイチモジヨトウによるネギの食害

表 ネギにおけるシロイチモジヨトウに対する防除薬剤

農薬の名称	希釈倍数又は使用量	使用時期	使用回数	使用方法	散布量 (L/10a)	系統 IRACコード
アニキ乳剤	1,000~2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	6
マトリックフロアブル	1,000~2,000	収穫7日前まで	3	散布	100~200	18
ディアナSC	2,500~5,000	収穫前日まで	2	散布	100~300	5
プレバソンフロアブル5	2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	28
ダブルシューターSE	1,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	—, 5

問合せ先
 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-2701